

# ネコギギの生育環境を改善する

ネコギギにとって好ましい環境の調査を行い、  
将来の放流後、個体群が自然に維持できるよう  
生育環境の保全と改善を図ります。



▲【池干しによる外来種駆除】捕獲されたブルーギルは約16キロ。ブルーギルはネコギギと餌をめぐる競争者となる恐れがあります。

▶ 外来種駆除の後、以前の調査では見られなかったフナの子稚魚がため池で泳いでいました。



## 外来種の駆除

平成19年10月、地域の人たちが中心となって、員弁川水系の河川・ため池で魚類調査・駆除作業を行いました。捕獲された生物のなかに、外来魚のブラックバスやブルーギルが見つかっています。ネコギギが生息する河川でも、このため池から流れ出た外来魚が確認されており、ネコギギをはじめとする在来種の健全な生育環境を脅かす存在であると考えられます。

## ネコギギの「隠れ家」

ネコギギはおもに流れの緩やかな淵や平瀬を生息場所としています。夜行性であるため、夜間は遊泳しながらカゲロウ類などの水生昆虫を策餌し、昼間は堆積した巨礫や岩の下の隙間に隠れています。



▲【ネコギギハウス】金属カゴの中に、窓開木箱と石を詰めたもの。暗くなるように板で天井を覆います。

これまでネコギギが減った原因のひとつとして考えられているのが、河川の中の「隠れ家」の減少です。自然災害などの影響で、「隠れ家」が土砂で埋まってしまい、ネコギギの居場所が少なくなっています。そこでいなべ市では、ネコギギハウス等の「人工の



▲【連結巨礫群】大きな石をワイヤーやチェーンでブドウ房状につないだものです。

「隠れ家」をつくり、ネコギギにとって好ましい河川の環境改善を行いました。

この取組はまだ始まったばかりですが、ほかの川魚が隠れていたのを確認したことから今後、ネコギギの隠れ家の利用が期待されます。

## 放流へ向けて

将来、ネコギギの放流場所を検討するにあたって、生息可能な環境がないか調査を行なっています。

後藤さん「生息可能な環境であるのに、現在はネコギギが生息しないといった場所が

ある可能性があります。現状の河川環境のなかでも、ネコギギにとって好ましい環境を見つけられたらいいなと思っています。」

今後、生息条件（隠れ家・水質・餌など）を満たす新たな生育地があれば、その場所へ放流できればと考えています。



◀ 生息環境調査。瀬・淵といった流れの状況などを調べます。